

救命・救急
医療の充実を

JAとりで総合医療センター (旧 取手) 院長と懇談

「救急車を呼んでも受け入れてくれる病院が見つからない」「一刻を争うのに病院搬送まで時間がかかりすぎる」と多くの市民が救命・救急医療体制の充実を求めています。日本共産党は充実につとめます。

日本共産党



左から、鈴木きよし、加増みつ子、せきど勇、遠山ちえ子の各氏

野田内閣は、TPP(環太平洋連携協定)への参加交渉に入りまし。TPPは農業だけでなく、医療では混合診療(お金を払えば保険外の高度医療が受けられる)の解禁をアメリカが求めています。日本共産党は、TPP参加に反対し、保険証1枚で誰もが安心して受けられる医療保険制度、地域医療の充実のため、医師会とも共同して頑張ります。

保険制度壊すTPP参加反対 地域医療の充実を全力

新谷院長との懇談に先立って日本共産党の4氏は、15日県の医務課に対し救命・救急医療の充実へ国・県の補助金の増額を要請しました。県は「第5次保健医療計画で第3次救急医療機関を位置づけた」「概ね20床以上の場合、国・県が3分の1ずつ補助する」「20床以下の場合補助制度がない」と述べました。とりで総合医療センターなどは補助金がでないことになってしまっています。

国・県・補助制度の拡充を



12月19日、日本共産党はJAとりで総合医療センター新谷周三院長と「救命救急問題」で懇談しました。

12月19日日本共産党の加増みつ子、遠山ちえ子市議、鈴木きよし、せきど勇の4氏は、JAとりで総合医療センターを訪問。新谷院長と約1時間懇談しました。新谷院長は、「現在増築工事をしている。増築棟1階は救急部門です。年間救急患者数は2万5735人、救急車搬入台数は4385台と多く、救急外来が狭隘化しているため、救急外来の拡張と、ICU(集中治療室)を現在の4床から10床に増床し、救急患者の受け入れ態勢の強化を図る」「2階は手術室、3階は腎(透析)センター、4階が産婦人科病棟、5階は小児科・泌尿器科、6階は回復期リハビリテーション病棟」と説明。「救命・救急医療の充実につとめます」と述べました。

救急車の病院収容時間別の搬送人員

(「取手市消防年鑑」より)
平成22年1月1日～平成22年12月31日

20分未満	245人	(6.2%)
20分～30分	1553人	(39.3%)
30分から60分	1969人	(49.9%)
60分以上	180人	(4.6%)
搬送人数合計は3947人		

明るい取手

2011年12月号外

発行:日本共産党取手市委員会
取手市井野3-19-6 TEL.72-7816

◆日本共産党の 見解を紹介します。

◆メール jcp.toride@blue.ocn.ne.jp ◆ホームページ <http://toride.jcpweb.net>

一人で悩まずに お電話を
生活相談・労働相談/弁護士無料法律相談

電話 72-7816